広島市植物公園
見どころ案内

2020年8月29日
通巻第474号

展示会のご案内

◇展示温室（8/22～8/30）
変化朝顔展

◇展示資料館（8/8～8/31）
おし花美術作品展

変化朝顔（ヒルガオ科）

（8月30日午後3時までの展示）

江戸の園芸文化を現代に伝える変化朝顔約200点を展示しています。当園では、昭和57年から変化朝顔の栽培・展示を継続しており、公的機関としては日本で一番長い栽培・展示の歴史があります。

モンキーオーキッド（ラン科）

花が猿の顔に似ているため、モンキーオーキッド（オーキッドはランの意味）と呼ばれています。いろいろな猿顔が見られますので、見比べてみてください。

ゴールデンチェーンツリー（キントラノオ科）

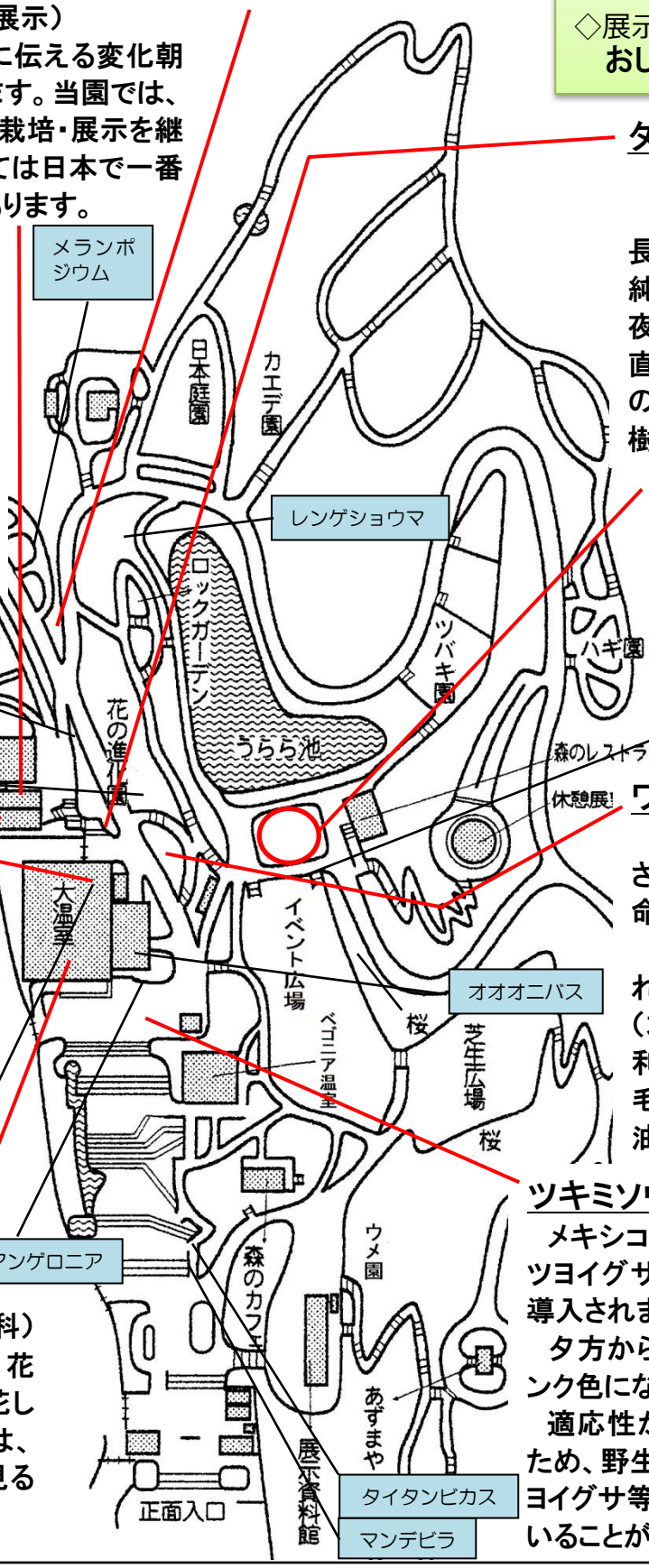
ブラジル原産の常緑樹。黄色い小花が鎖状につき、長さ1m以上に垂れ下がるように咲きます。国内の植物園での開花は珍しい植物です。

サガリバナ（サガリバナ科）

夜間開園の目玉植物で、花は夜に咲き、翌朝には落花します。自生する西表島では、早朝に水面に落ちた花を見るツアーも開催されています。

オミナエシ（オミナエシ科）

秋の七草として知られていますが、実際の開花期は盛夏です。日当たりのいい草地に黄色の花を咲かせます。



タマノカンザシ（キジカクシ科）

ギボウシ属の一種で、夏に長い花茎を伸ばし、漏斗状の純白の花を咲かせます。花は夜に開き、芳香があります。直射日光下では葉が焼けるので、植栽箇所のような落葉樹の下が生育に適します。

ヒマワリ‘サンフィニティ’（キク科）

花は少し小ぶりですが、枝分かれして多くの花をつける品種です。一面のお花畑をお楽しみいただけます。

ワタ（アオイ科）

古くから工芸作物として栽培されており、イギリスの産業革命の元になった植物です。

開花後には白い綿毛が採れ、これを加工したものが綿（木綿）として衣類や日用品に利用されています。また、綿毛を採った後の種からは綿実油という油が採れます。

ツキミソウ（アカバナ科）

メキシコ原産の植物で江戸時代にマツヨイグサなどと一緒に観賞用として導入されました。

夕方から白い花を咲かせ、朝にはピンク色になり、しぼむ一夜花です。

適応性が弱く、野生では見られないため、野生化してよく見られるオオマツヨイグサ等がツキミソウと勘違いされていることがよくあります。

✿ 毎週土・日曜日・祝日　午後１時半～３時２０分は、ガイドボランティアが園内を案内します✿
✿ 毎月第２火曜日・第４土曜日 午前１１時～は、職員による植物うんちくガイドを実施します✿